

## 12. 準備書に対する意見等の概要

### 12.1. 準備書に対する市民等意見の概要

本事業における環境影響評価準備書は、仙台市環境影響評価条例第14条第1項に基づき、平成24年10月19日から11月19日までの1ヵ月間、縦覧に供された。

平成24年10月19日から12月3日までの意見書の提出期間において、環境の保全及び創造の見地からの意見を有する者の意見書の提出はなかった。

### 12.2. 準備書に対する市長の意見

仙台市環境影響評価条例(平成10年仙台市条例第44号)第18条第1項の規定により、本事業の環境影響評価準備書に対する市長意見(H24環環都第1241号)が平成25年1月17日に述べられた。

その内容は以下に示すとおりである。

#### 1 全体事項

(1) 本事業地は、一級河川名取川と同水系策川には含まれた、水田や畑の中に樹林や草地が点在する田園地域に位置するとともに、地下鉄南北線富沢駅の徒歩圏内となっている。このような事業地の特性を踏まえ、特に次の内容について求めるものである。

① 動植物、自然との触れ合いの場を与える影響を低減させるため、樹林や草地を可能な限り保全するよう、公園の自主整備も含め、公園計画、道路計画等を再度検討すること。

また、仙台市の制度も活用しながら積極的に保全がなされるよう樹林や草地の地権者に対し働きかけを行うこと。

② 当該事業地内の緑化にあたっては、可能な限り緑化面積を確保するとともに、緑の質にも配慮した樹種を選定し、かつ緑の連続性を形成するよう配置等を考慮すること。

③ 公共交通を活用するまちづくりの視点から、歩行者を優先する道路計画とした検討の経緯を、評価書に記述すること。

(2) 本事業で使用する盛土材料については、購入土のみではなく、震災がれきや他の事業からの発生土の使用を積極的に検討すること。

#### 2 個別事項

(騒音)

(1) 供用時の道路騒音について、事業地内のみならず事業地に隣接する既存の市街地等への影響の調査、予測及び評価を行うこと。その結果、環境基準を超過することが予測される場合は、環境基準を確保するため低騒音舗装の実施等の対策を行うこと。

(地形・地質)

(2) 旧河道において液状化の可能性を示す調査結果がみられることから、再度詳細な予測・評価を行い、必要な保全措置を講ずること。

(動物、植物及び生態系)

(3) 本事業の実施が、事業地内外の緑地及び名取川と策川の水辺地を利用している移動能力の高い動物に影響を及ぼす可能性も踏まえて予測・評価すること。

(4) 本事業地は、猛禽類の採餌場所として利用されており、猛禽類の繁殖への影響が考えられることから、工事中や供用後の採餌及び営巣への影響を再度適切に予測・評価を行うこと。

また、樹林や草地の保全や事業地の緑化等、猛禽類の生息環境を保全するための措置について、評価書に記述すること。

（自然との触れ合いの場）

- (5) 名取川、筑川のみならず事業地内及びその西側に広がる水田や畑、点在する樹林や草地も自然との触れ合いの場と捉え、調査、予測及び評価を行うこと。

（廃棄物等）

- (6) 樹林や草地を可能な限り保全すること及び伐採木の再資源化により、廃棄物量及び二酸化炭素排出量の削減に努めること。

### 12.3. 市長意見に対する事業者の見解

環境影響評価準備書に対して示された市長意見（H24 環環都第 1241 号）に対する事業者の見解は、表 12-1(1)～(4)に示すとおりである。

表 12-1(1) 市長意見に対する事業者の見解

市長の意見	事業者の見解
<p>1 全体事項</p> <p>(1) 本事業地は、一級河川名取川と同水系 策川にはさまれた、水田や畑の中に樹林や草地が点在する田園地域に位置するとともに、地下鉄南北線富沢駅の徒歩圏内となっている。このような事業地の特性を踏まえ、特に次の内容について求めるものである。</p> <p>① 動植物、自然との触れ合いの場を与える影響を低減させるため、樹林や草地を可能な限り保全するよう、公園の自主整備も含め、公園計画、道路計画等を再度検討すること。</p> <p>また、仙台市の制度も活用しながら積極的に保全がなされるよう樹林や草地の地権者に対し働きかけを行うこと。</p> <p>② 当該事業地内の緑化にあたっては、可能な限り緑化面積を確保するとともに、緑の質にも配慮した樹種を選定し、かつ緑の連続性を形成するよう配置等を考慮すること。</p>	<p>事業予定地は、策川と仙台南部道路及び名取川にはさまれた区域であり、農地や樹林が存在する田園地域に位置しております。</p> <p>また、地下鉄南北線富沢駅から徒歩圏に位置し、地形も平坦となっており、自転車や徒歩での移動が容易です。</p> <p>① 道路計画においても、今後の詳細設計の中で、樹林や草地の保全の検討を進め、可能な限り対応していく予定です。</p> <p>4号公園については、公園の配置を見直し、既存樹木を極力保存するとともに、既存樹木の保全を含めた公園計画を立案し、公園管理者との協議を踏まえ、事業者が整備を行います。</p> <p>公園・緑地計画については、既存緑地の状況確認と所有者へのヒアリングを行い、仙台市の保存樹林制度の紹介などを行いながら、保全の働きかけを行います。</p> <p>○ 記載箇所： ・「1.5.5 公園・緑地計画」評価書 p.1-13～21</p> <p>② 本事業では、幹線道路及び補助幹線道路において、街路樹の植栽を行う計画です。樹種等は、道路管理者との協議の上、地域の植生に考慮した種を植栽する予定です。また、公園においても、地域の植生に考慮した植栽等について、公園管理者へ要望していきます。</p> <p>街路樹及び公園等により緑の連続性を形成していく予定です。また、緑化にあたっては、地域に由来する郷土種に配慮すると共に、鳥類が採餌できる実のなる木を選定します。</p> <p>さらに、新たに居住する方にも郷土種に配慮した、居住者が育てやすい樹木を提供するなど、将来に向けた緑の保全について努力をいたします。</p> <p>○ 記載箇所： ・「1.5.5 公園・緑地計画」評価書 p.1-13～21</p>

表 12-1(2) 市長意見に対する事業者の見解

市長の意見	事業者の見解
<p>③ 公共交通を活用するまちづくりの視点から、歩行者を優先する道路計画とした検討の経緯を、評価書に記述すること。</p>	<p>③ 公共交通を活用するまちづくりの視点から、歩行者を優先する道路計画とした以下の検討の経緯を評価書に記載します。</p> <p>事業予定地は、地下鉄南北線富沢駅から徒歩圏に位置し、地形も平坦であり、自転車や徒歩での移動が容易である。この地理的、地形的特性を活かして、「歩いて暮らせるまちづくり」を目指すため、地区全体の造成勾配を緩やかにして、バリアフリー化を図り、過度に自動車に頼らない計画を検討し、富沢駅への自転車・歩行者動線は、以下に示す事項について配慮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業予定地のほぼ中央を東西に横断する「市道富沢山田線」を骨格として、地区内を環状する歩道付き道路（14m）を配置する。</li> <li>・既存の市街地を経由して駅へ向かうことを考慮し、東西方向に 8.0m 幅員以上の区画道路を配置する。</li> <li>・上記を補完する形で、歩行者専用道路配置する。</li> </ul> <p>公共交通の利用については、地権者及び土地購入者には、出来るだけ公共交通機関を活用するとともに、徒歩や自転車での移動を要請します。</p> <p>なお、自転車道を単独で整備することは、事業性や道路管理上から困難であった。</p> <p>○記載箇所：「1.5.6 道路交通計画」評価書 p.1-23</p>
<p>(2) 本事業で使用する盛土材料については、購入土のみではなく、震災がれきや他の事業からの発生土の使用を積極的に検討すること。</p>	<p>本事業で使用する盛土材料については、震災瓦礫処理の際の発生土や他の事業からの発生土を土質や土壌条件、搬入価格に問題がなければ使用して行きたいと考えます。</p> <p>○記載箇所：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1.5.6 造成計画」評価書 p.1-34</li> </ul>

表 12-1(3) 市長意見に対する事業者の見解

市長の意見	事業者の見解
<p>2 個別事項 (騒音)</p> <p>(1) 供用時の道路騒音について、事業地内のみならず事業地に隣接する既存の市街地等への影響の調査、予測及び評価を行うこと。その結果、環境基準を超過することが予測される場合は、環境基準を確保するため低騒音舗装の実施等の対策を行うこと。</p>	<p>供用時の道路騒音について、市道富沢山田線の事業予定地内と事業予定地外の東側及び西側の既存市街地についても調査、予測・評価を行いました。</p> <p>予測の結果、事業予定地内及び事業予定地外東側において環境基準を超える場合があり、本事業において、事業予定地内については騒音の環境保全措置として低騒音舗装を敷設する予定としています。</p> <p>事業予定地外については、本事業において騒音の環境保全対策としての低騒音舗装を敷設することはできないため、道路管理者へ本予測結果を示して、低騒音舗装の敷設を要請していきます。</p> <p>また、供用後の事後調査において事業予定地外にも調査地点を追加し、道路管理者に調査結果を提示し、必要に応じ事業予定地外の道路における環境配慮を要請していきます。</p> <p>○記載箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「8.2. 騒音 8.2.2.予測 (4)供用による影響」評価書 p.8.2-29～38</li> <li>・「8.2. 騒音8.2.3.環境の保全及び創造のための措置 (4) 供用による影響」評価書 p.8.2-42、43</li> <li>・「11.2 事後調査」評価書 p 11-6</li> </ul>
<p>(地形・地質)</p> <p>(2) 旧河道において液状化の可能性を示す調査結果がみられることから、再度詳細な予測・評価を行い、必要な保全措置を講ずること。</p>	<p>策川沿いの一部の範囲で液状化の可能性のある飽和砂質土層においては、「液状化危険度はかなり低い」～「液状化危険度は低い」という判定結果となりましたが、再度、確認検証のため同様の予測・評価を行って、評価書に記載した保全措置を講じていきます。</p> <p>また、詳細設計に際しては、液状化現象については補足ボーリング調査実施後さらなる検討を行なうとともに、必要に応じ、土地購入予定者への説明などの対応を図るなどの環境保全措置を追加いたします。</p> <p>○記載箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「8.6.地形・地質」評価書 p. 8. 6-32～38</li> </ul>

表 12-1(4) 市長意見に対する事業者の見解

市長の意見	事業者の見解
<p>(動物、植物及び生態系)</p> <p>(3) 本事業の実施が、事業地内外の緑地及び名取川と笹川の水辺地を利用している移動能力の高い動物に影響を及ぼす可能性も踏まえて予測・評価すること。</p>	<p>事業予定地は、笹川と仙台南部道路及び名取川にはさまれた区域であり、農地や樹林が存在することから、移動能力の高い動物にとっては利用しやすい環境であると考えます。</p> <p>本事業では、幹線道路及び補助幹線道路において、街路樹の植栽を行う計画です。公園においても、地域の植生に考慮した植栽等について、公園管理者へ要望していきます。</p> <p>これらの街路樹及び公園等により緑の連続性を形成していく予定であり、評価書においては、「連続性（緑のコリドー形成）」について追記し、移動能力の高い動物に影響を及ぼす可能性があることも踏まえた予測・評価を行いました。</p> <p>○記載箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1.5.5 公園・緑地計画」評価書 p.1-13～21</li> <li>・「8.9.動物 8.9.2.予測～」評価書 p.8.9-64～84</li> <li>・「8.10.生態系 8.10.2.予測～」評価書 p.8.10-16～28</li> </ul>
<p>(4) 本事業地は、猛禽類の採餌場所として利用されており、猛禽類の繁殖への影響が考えられることから、工事中や供用後の採餌及び営巣への影響を再度適切に予測・評価を行うこと。</p> <p>また、樹林や草地の保全や事業地の緑化等、猛禽類の生息環境を保全するための措置について、評価書に記述すること。</p>	<p>事業予定地内外に、オオタカがよく利用している採餌場所があることは確認しており、猛禽類の繁殖への影響が考えられることから、工事中や供用後の採餌及び営巣への影響を再度適切に予測・評価を行いました。</p> <p>また、既存樹林地の保全や事業予定地の緑化等、猛禽類の生息環境を保全するための措置について、評価書に追記しました。</p> <p>○記載箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「8.9.動物 8.9.2.予測～」評価書 p.8.9-64～84</li> <li>・「8.10.生態系 8.10.2.予測～」評価書 p.8.10-16～28</li> </ul>
<p>(自然との触れ合いの場)</p> <p>(5) 名取川、笹川のみならず事業地内及びその西側に広がる水田や畑、点在する樹林や草地も自然との触れ合いの場と捉え、調査、予測及び評価を行うこと。</p>	<p>調査地点として、親水護岸が整備された笹川を対象に調査、予測・評価を行ったため、事業予定地は、調査、予測・評価の対象としておりませんでした。</p> <p>事業予定地及び周辺は、水田や畑が広がり、農業用水路が延び、樹林地も点在しています。</p> <p>本事業では、事業予定地の水田や畑は改変され、宅地として整備されることになり、自然との触れ合いの場は消失します。</p> <p>したがって、事業予定地及びその周辺西側に広がる地域も自然との触れ合いの場と捉え、調査、予測・評価を行いました。</p> <p>○記載箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「8.12 自然との触れ合いの場」評価書 p.8.12-1、4、9～14</li> </ul>

表 12-1(5) 市長意見に対する事業者の見解

市長の意見	事業者の見解
<p>(廃棄物等)</p> <p>(6) 樹林や草地を可能な限り保全すること及び伐採木の再資源化により、廃棄物量及び二酸化炭素排出量の削減に努めること。</p>	<p>消失する緑地を極力少なくするため、事業予定地の 10 箇所の樹林地の地権者に対し、仙台市の保存樹林制度の紹介などを行いながら、保全の働きかけを行います。4 号公園については、公園の配置を見直し既存樹木をできるだけ保存します。</p> <p>また、伐採した樹木の再資源化率を向上させる措置として、チップ化による再利用について検討し、廃棄物量及び二酸化炭素排出量の削減に努めます。</p> <p>○記載箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1.5.5 公園・緑地計画」評価書 p.1-13～21</li> <li>・「1.7 環境の保全・創造等に係る方針」評価書 p.1-52～53</li> <li>・「8.14 廃棄物等」評価書 p.8.14-6～18</li> </ul>